

Science Report of Kushiro City Museum

釧路市立博物館報

NO.431



2023.3

「釧路における「水共生学」プロジェクトの展開への期待」

水は全ての生命の源であり、森林や農地、河川から海に至る流域の生態系には多様な生物が生きついています。我々人間もまた水インフラや農林水産資源、信仰や文化、レクリエーション、街並や港など水のもつ様々な機能の恩恵の中で暮らしています。

しかし、近年の気候変動によって、豪雨など水に関わる様々な災害が日本各地で頻発しています。また、世界に目を向けると、水不足や水の利用リスクは紛争や貧困にも直結する大きな課題になっています。こうした現状にあって、水とヒト、生物が持続的に共生する社会を実現することは、現代社会における極めて重要な課題です。一方で、近代以降の人間の活動が水危機や水リスクの大きな要因となっている状況の下では、従来の自然科学分野の情報と人文社会学分野の知を統合する学術分野を横断する新たな学問が必要です。

こうした状況を鑑み、私を領域代表者として文部科学省科研究費学術変革領域研究(A)の補助を受けて令和3年度から開始した学際プロジェクトが「ゆらぎの場としての水循環システムの動態的解明による水共生学の創生」(以下「水共生学」)です。水共生学では、水をめぐる環境を地球圏—生物圏—人間圏の三つの圏域のせめぎ合いによって生じるゆらぎを常に内包する「水循環システム」として捉え、このシステムを持続可能な範囲に維持できるように地域の実態に即した将来像の提案を目指します。

この水共生学では、プロジェクトメンバーが共同して

調査・研究・社会実装を行う「共同フィールド」を複数設定していますが、中でも注力しているのが釧路地域です。釧路には日本最大の湿原であり、日本初のラムサール条約登録湿地として有名な釧路湿原があります。多数の希少な生物が生息し、貴重な文化財も点在する釧路湿原は重要な観光資源になっています。しかし、釧路湿原は近年の温暖化の影響などにより草原化が急速に進み、湿原環境の再生や保全、観光への活用が大きな課題となっています。近年ではメガソーラーの建設による湿原の自然環境や生物への影響も懸念されています。

こうした釧路の課題解決のための調査研究活動の要となるのが、釧路市立博物館です。釧路市立博物館の学芸員の皆様には、2019年12月より九州大学大学院比較社会文化研究院共同研究者として「水共生学創生のための釧路・道東地域をモデル地域としたアクション・リサーチ」に関わる研究に取り組んでいただいております。水共生学にも研究分担者としてご参画いただいております。2023年9月には水共生学と釧路市立博物館、釧路国際ウェットランドセンターが共催でラムサール会議30周年記念シンポジウムを釧路市で開催する予定です。

異なる分野が協同して課題解決に取り組む水共生学プロジェクトが、現在の釧路が直面する様々な課題の解決に寄与するためにも、今後とも釧路市立博物館の皆様方のお力添えを賜れば幸いです。

荒谷 邦雄(九州大学大学院比較社会文化研究院)

3月号目次

「釧路における「水共生学」プロジェクトの展開への期待」	荒谷 邦雄	2
2021/22年冬期の春採湖の結氷観測	牛塚 貴博・亀田 貴雄	3
マグソクワガタ(甲虫目:クワガタムシ科)の道東からの新記録	荒谷 邦雄・土屋 慶丞	6
釧路湿原達古武湖付近の小沼で絶滅危惧植物ヒンジモ <i>Lemna trisulca</i> L.(サトイモ科)を確認	加藤ゆき恵・苅部 治紀	7
追悼「摩周ブルー」に魅せられた細川音治さん	佐藤 広行・加藤ゆき恵	8
新平溪煤礦博物園區(台湾炭鉱博物館)と友好館協定を締結	石川 孝織	9
「チームシマエナガさん」より寄付いただきました・夕日ラウンジにおけるYouTubeの開設	貞國 利夫	10
チャランケシャシ	伊藤 友香・戸田 恭司	11
博物館ニュース		12

〈表紙写真〉2022年12月10日に開催した「アイヌ古式舞踊公演@博物館」。企画展「リムセヤン・ウポポヤン〜受け継がれる道東アイヌの歌と踊り〜」の関連行事として、阿寒アイヌ民族文化保存会の皆さんを招聘して実施しました。「タクサの舞」、「鶴の舞」、「フッタレチュイ」といった同保存会の代表演目を含む9種の歌・踊りで観客を楽しませていただきました。写真は、最後の輪踊り(エッサホー)です。会場の皆さんも参加して盛り上がる、リムセ(踊り)のクライマックスです。(城石 梨奈)

釧路市立博物館館報 No.431 2023年3月号 2023年(令和5年)3月31日発行

発行 釧路市立博物館 〒085-0822 釧路市春湖台1-7

☎ 0154-41-5809

釧路市立博物館Web <https://www.city.kushiro.lg.jp/museum/museum@city.kushiro.lg.jp>

発行責任者 松本 敦 編集 貞國 利夫 印刷 (株)藤プリント